

教員と演習の紹介

- ①教員の研究テーマ
- ②演習の紹介・メッセージ
- ③演習のキーワード

大学院では、講義を履修し、論文指導を受けることが必要です。教員の研究テーマは以下の通りです。なお、年度によっては開講されない場合もあります。

社会経済システム専攻

伊藤 カンナ

- ① 現代西洋経済史を専門としています。現在は、1950年代—60年代のイタリア国内の後発地域(イタリア南部)の開発計画を中心に、世界銀行と援助を受ける側の借款交渉や国際的な政策協調の実態を解明し、ヨーロッパの統合過程や国際金融協調が一国経済の政策運営に与えた影響を検証しています。
- ② 西洋経済史の基本的文献や重要な研究書・論文を輪読・討議することで、経済史の中心的な論点や視角、実証の方法について学びます。同時に、参加者独自の研究テーマに関して研究報告を行い、史料の収集や読み方を身につけます。
- ③ 経済史 金融史 イタリア経済 EU経済

工藤 教孝

- ① マクロ経済学の分析手法を用いて労働市場の景気変動を分析しています。特に、サーチ理論を用いて求職活動(=失業状態)ならびに求人活動をモデル化し、モデルのシミュレーションから得られる統計的特徴をデータのそれと合わせていく活動に力を注いでいます。また、財政金融政策や資産価格に関する理論研究も行っています。
- ② 「上級所得理論Ⅰ」の受講を前提として、マクロ経済学の主要論文の分析結果を再現・追試する活動に力を注ぎます。特に、近年発表された最新論文の多くはコンピューターシミュレーションを多用しているため、マクロ経済分析に加えてシミュレーションを自分で行って論文の結果を再現することは、内容を理解する上で大変重要です。数理的・数量的な分析に明け暮れる毎日と一緒に楽しみましょう。
- ③ マクロ経済学 サーチ理論 数量分析 労働市場 金融市場 経済政策 シミュレーション

齊藤 誠

- ① 私の研究テーマの範囲は、一見、ちぐはぐに見えますが、私たちの社会が直面しているさまざまなリスクについて、どのようにリスクの性質を計測し、管理していけばよいのか、いかにしてリスクに前もって準備し、いざ、リスクが生じた場合に、どのように立ち向かえばよいのかを、資産価格の変動や金融市場の混乱のリスク、景気循環上のリスク、自然災害リスクの分野で研究してきました。最近では、カタストロフィック・リスクと呼ばれるリスク(たとえば、資産価格の暴落、産出量の激減、物価の高騰、大地震の勃発)を研究対象としています。理論と実証の両面で研究を行っています。
- ② 演習では、日本経済の問題について、特にマクロ経済や金融市場の動向について、政府統計でどのように把握していくのかをみっちり勉強した上で、そうしたデータに対して、どのように経済理論を応用し、どのように実証手続きを適用するのかを一緒に勉強していきたいと思っています。
演習生には、常に知的好奇心と知的忍耐の両方をもって勉強に臨む態度を希望します。なお、修士の院生は、次の観点から指導方法を分けていきます。
【博士後期課程に進学して研究者としての活躍を目指す院生】マクロ経済学と金融理論を専攻する院生に対して、重要な論文を読み込み、必要となる高いレベルの計量手法の訓練をし、査読論文掲載を目的とした指導を厳しく行います。
【修士修了後、社会での活躍を目指す院生】私の専門に関わらず、経済学修士取得を目指す院生に対して、広く経済現象に関心を持ってもらうために、専門性が極度に高くない書籍の輪読をします。2022年度は、トマ・ピケティ『21世紀の資本』(みすず書房)に取り組みます。輪読と並行をして、論文の読み方、データの取得の方法、基本的な統計処理のトレーニングを行い、適度なレベルの修士論文を仕上げることが目標とします。
- ③ マクロ経済学、金融理論、ファイナンス理論、金融史

■ 清水 克俊

- ① 経済的厚生という観点から人々にとって望ましい金融市場・金融システムはどのようなものか、現在の金融市場・システムにはどのような問題があるかということを研究課題としています。特に、ファイナンス理論、金融契約論、マクロ経済学のアプローチによって、金融規制や金融政策について理論的・実証的に分析しています。
- ② ③にあげるキーワードに関する問題を中心に扱います。テキストや論文などから基礎的知識を習得します。また、参加者の研究報告および討論を行います。金融機関または事業会社で金融の実務経験がある方はもとより、金融実務や金融市場・マクロ経済に関心のある方の参加を広く募集します。
- ③ 金融仲介機関(financial institutions), 金融市場(financial market), 金融契約(financial contracts), 金融規制(financial regulation), 金融政策(monetary policy), クレジット・リスク(credit risk), 日本経済(Japanese economy), 経済政策(economic policy), コーポレートファイナンス, デリバティブ

■ 園田 正

- ① 日本、中国、ベトナム、バングラデシュの農家の地域別データ、世帯別・個人別データを使いながら、農家をはじめとする自営業世帯の生産活動、労働供給、消費活動について、計量経済学的方法(最近は特に生産関数、技術効率、生産性、労働移動の推定)に興味をもっている。
- ② 1年次では、計量経済学、農業経済学、開発経済学などに関係する本や論文の輪読により、自分が関心をもつ経済モデルや計量経済学の方法を学ぶ。同時に、統計ソフトウェア(Stataなど)の基本操作を修得する。2年次では、1年次に学んだ方法を利用して修士論文の作成を進めてもらい、演習での報告、議論を通じて完成をめざす。
- ③ 自営業世帯(農家を含む) 生産性 計量経済学 労働供給

■ 立石 寛

- ① 意思決定理論およびゲーム理論の基礎研究を通じ、社会に直面した主体の合理的・限定合理的な行動分析と、その背後に横たわる主体の推論様式の研究をとりおこなっております。
- ② 本演習は、経済現象の数理構造に関する理解を深めることを目的とします。数理経済学にまつわる諸々の論題及び経済分析を執り行う上で必要となる数学用具について演習を行います。
- ③ 数理経済学

■ 玉井 寿樹

- ① 公共経済学を専門としています。特に、公的資本と経済成長の関係について研究をしてきました。現在は、政治過程と公共投資の関係について理論的に研究をしています。これ以外の研究としては、公共投資の経済効果に関する実証分析、財政競争に関する理論分析に取り組んでいます。
- ② 博士前期課程1年次には公共経済学の基本文献を輪読し、公共経済学分野での基本的な分析手法を習得していきます。2年次は各自の研究について報告し、ゼミでの議論と論文指導を通じて、修士論文の完成を目指します。博士後期課程においては各自の研究テーマに沿った研究について報告し、ゼミでの議論と論文指導を通じて、博士論文の完成を目指します。
- ③ 公共経済学 公的資本 経済成長 租税競争

■ 田村 彌

- ① 経済理論を検証するためのラボ実験や政策評価のための社会実験などに用いる実験デザインについての研究や実験を用いた実証研究を行っている。
- ② 応用経済学分野の文献や論文の輪読を行う。各自が設定した研究テーマに関連する論文や自分の研究アイデアの報告を行い、修士論文執筆のための基礎知識を習得する。評価はゼミでの発表やレポートに基づく。
- ③ ミクロ経済学 情報の経済学 実験経済学

土井康裕

- ① ヨーロッパの経済統合等を中心に、貿易や生産要素移動の国際的な自由化による効果について、GDPや産業構造に焦点を当てて分析を行っている。また、日本企業による外国人労働者の雇用と地域の生産性の関係等、製造業を中心とした人的資本の国際化による効果についても研究を行っている。
- ② 演習では、ミクロ経済学の枠組みを活用し、国際経済やマクロ的な分析を実証的に行うことを指導している。理論的な理解と、データを使った実証的な分析を併用し、現実の社会問題について、経済学を通して説明するための訓練を行っている。
- ③ 経済統合、経済成長、産業構造、FDI、労働移動

中村 さやか

- ① 私の専門は医療経済学です。医療の現実を理解しよりよい政策を考える上で、ゲーム理論、特に情報を持つ人と持たない人の間のかけひきについての理論モデルと、データから物事の因果関係を検証するミクロ計量経済学が、非常に有益だと考えています。具体的には、医療供給者の行動、避妊法選択、体型の男女差、学校給食が子供の体形に与える影響、等について研究してきました。現在は食習慣や医療機関による診療スタイルの差異に関する実証研究を行っています。
- ② 数学的理論モデルと統計分析の基礎を確実に理解することを最も重視します。1年次は上級計量経済学I・IIと上級価格理論I・IIの講義内容に対応した演習問題を解き、また、国際的に定評のある医療経済学のテキスト(Phelps, Health Economics; Sloan & Hsieh, Health Economics等)を論読します。さらに、統計分析ソフトSTATAを用いた演習を行います。(STATA(SE以上、1年ライセンス¥19,800～)がインストールされた64bitのノートPCを自分で用意してください。)2年次には日本のマイクロデータを用いた実証分析を行い、分析結果をもとに修士論文を書きます。
- ③ 応用ミクロ計量経済学 医療経済学 ミクロ経済学

鍋島 直樹

- ① ケインズとカレツキの学説について、理論・思想・政策の三つの側面からの総体的な再検討を進めています。それと同時に、ポスト・ケインズ派やアメリカ・ラディカル派など、ケインズとカレツキの知的遺産を継承し、その一層の発展を目指している現代政治経済学の諸潮流の動向にも関心を持っています。
- ② ラディカル派政治経済学に関する基本文献(おもに英語文献)の講読を通じて基礎理論の習得をはかるとともに、参加者各自の研究テーマにもとづいて個別研究報告を行ないます。それを通じて、社会的コンフリクト・権力・支配などの政治的・社会的要因のはたらきが、資本主義経済の動態および構造変化においていかなる役割を演じているのかについての理解を深めます。
- ③ 政治経済学 経済学史 ケインズ カレツキ ポスト・ケインズ派 アメリカ・ラディカル派

花蘭 誠

- ① 産業組織論を専門としている。最近の主な研究テーマは、調達の経済学、消費者探索と産業組織、市場構造の研究。
- ② ミクロ経済学、ゲーム理論、および産業組織論の知識を必要に応じて習得するとともに、各自の研究テーマに従い研究報告・討論を行う。テーマ設定の自由度は高いが、調達の経済学や消費者探索に関心のある学生を歓迎する。
- ③ 産業組織 契約理論 ゲーム理論 オークション 調達 サーチ 市場構造

根本 二郎

- ① 種々のデータ解析手法による国、産業ないし企業の生産／費用構造の分析と、それに関連する経済政策の定量的評価。特に、現在は次のような問題を扱っています。
(1) 計量経済学およびOR的手法による生産効率計測法の開発
(2) 公益事業(電力、電気通信、鉄道)の費用構造の計測と、その産業組織論的特性(規模の経済性、範囲の経済性など)の分析および生産性と効率性の計測
(3) 高等教育機関の評価のための費用構造の計測と、その産業組織論的特性(規模の経済性、範囲の経済性など)の分析および生産性と効率性の計測
- ② データ解析の手法と経済学の理論的フレームワークに基づき、企業行動や消費者行動の実証的研究を行います。ミクロ的な経済主体の行動に限らず、マクロ的な経済予測や政策評価も演習の範囲とします。できる限り早い段階で修士論文のテーマを決定し、1年次のうちに理論的バックグラウンドを固め、必要な分析手法を修得できるよう演習を進める。2年次においては、修士論文研究に集中します。
- ③ 実証経済学 計量経済分析 生産関数 マクロ計量モデル 産業連関分析 経済予測

福澤 直樹

- ① ドイツ福祉社会史(ドイツ経済史・西洋経済史)：
現在多くの先進工業国では、市場経済を基調としながらも社会保障が不可欠の国家機能として制度化されています。このような福祉国家体制(担い手の多様性を考慮すれば福祉社会)が、前近代的社会から今日の高度工業化社会にいたる経済史的展開の中でどのように形成されてきたのかを経済社会の構造変動の観点から研究しています。主にドイツを研究対象とし、これまでは最も古い歴史をもつ同国の社会保険を中軸に研究を進めてきましたが、近年は市場経済社会の中でそうした社会的調整を必然化させてきた経済秩序(ドイツのオルドリベラリズムなど)にも焦点を当てて研究をしています。
- ② 演習の内容は西洋経済史で、参加者の希望に応じて、社会政策史・社会保障史などにも立ち入ります。その上で参加者が各自の関心に基づき報告を行い、それをうけて討論をします。現在多くの国はさまざまな社会経済問題に直面していますし、問題は一国内にとどまるものでもありません。市場の論理に収まりきれないこれら諸問題にはさまざまな対応が試みられていますが、決して十分ないし適切なかたちをとることができていません。もとより社会的調整の根拠や必然性などがそのような際に十分に理解されているのかといえ、実のところかなり心許ありません。また一般的なメカニズム分析型の理論だけでは現代の社会経済の諸問題の解明には十分ではなく、社会的コンテキストについての識見が今こそ求められます。そのためにも、歴史的に見られた市場経済下での経済過程への社会的な調整の根拠や範囲、現代の経済社会における「共同性」などについて、明確かつ論理的な理解が必要とされています。こうした問題意識などをもちながら福祉国家(ドイツでは「社会国家」)ないし福祉社会の論理について、皆で議論しながら考えていきましょう。
- ③ 西洋経済史 ドイツ経済史 社会政策史 社会保障史 社会国家 福祉国家 福祉社会 福祉社会史
オルドリベラリズム ネオリベラリズム

藤田 真哉

- ① ケインズ派やレギュレーション派のマクロ経済モデルを用いて、各国固有の経済制度や経済政策が構造変化や経済成長、所得分配(所得格差)に与える効果を研究しています。また、アンケート調査やヒアリング調査等によって、現実企業の研究開発活動やイノベーションを規定する諸要因を分析しています。
- ② 演習の一年次は、現代の政治経済学や制度経済学の基本的な諸文献を輪読します。二年次は、参加者が各自の研究について報告し、議論を重ねることを通じて、修士論文を作成します。
- ③ 構造変化 経済成長 所得分配 制度分析 資本主義の多様性 イノベーション政策

柳原 光芳

- ① (A)財政、特に教育政策が経済成長に与える影響についての理論およびシミュレーション分析と、(B)公企業に関する理論。より具体的には、次の4つの点を中心に研究をすすめています。
(A1)教育メカニズム(公教育・私教育などの教育制度、あるいは中央・地方政府による教育供給)が経済厚生あるいは経済成長に与える影響についての分析、(A2)日本経済に関わる財政シミュレーション分析、(A3)世代重複モデルそのものに関する研究、および(B)公企業が供給する財・サービスの価格付けに関する理論分析。
- ② 演習は、数学の基礎的知識を前提とした上で、参加されるみなさんの興味関心に基づいて、財政、教育の経済学、マクロ理論の論文の輪読を進めていくというものです。疑問点については徹底的に討論し、参加されるみなさんの研究の一助となるような演習を目指していきたいと思っています。
- ③ 世代重複モデル 教育 人的資本 経済成長 中央・地方政府 公企業

柳瀬 明彦

- ① 国境を越えた経済的取引(貿易や資本移動)に伴う企業や家計の意思決定や政府による政策決定に関する諸問題を理論的に研究しています。最近では、特惠的貿易協定と非関税障壁の戦略的決定、公共インフラの蓄積と貿易、資源・環境問題と貿易などの研究テーマに取り組んでいます。
- ② 国際経済学や応用マイクロ経済学分野における基本的な文献の検討を通じて、問題の理解とともに分析手法の習得を目指します。そのうえで、各自の関心に応じて研究テーマを設定し、先行研究のサーベイを通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、自らの研究成果の発表とそれに対する討論を通じて、研究の更なる発展を目指します。
- ③ 国際経済学 応用マイクロ経済学 経済動学

産業経営システム専攻

■ 犬塚 篤

- ① ミクロ組織論、なかでも実証データをもとにした数理的解釈を得意とし、組織現象のメカニズムやそれに伴う組織行動の変容等を、計量的に解明(表現)することに強い関心をもっています。特に、知識の共有や移転、組織内意思決定、異組織・技術間の統合や連携等に関わる理論的問題を、数量化技法やネットワーク技法等の統計的・工学的アプローチによって明らかにしようとしています。
- ② 下記のHPに詳細を紹介しています。当研究室を希望する方は、自分の研究テーマが要件を満たしているかを必ず確認してください。
<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~inu/lab.html>
- ③ ナレッジマネジメント、ネットワーク分析、特許分析、技術経営、サービス・マネジメント

■ 小沢 浩

- ① 管理会計を主な研究領域として、製造企業を対象としたコストの管理、業績評価について研究しています。マクロなレベルでは情報処理アプローチによる組織構造論、ミクロなレベルでは、動作・時間研究などの経営工学(IE)の知識を背景として、人間関係などの情緒的な視点からよりも、機械的・技術的なシステムとして組織を考えようとしています。これまでは、トヨタ生産方式やセル生産などの生産方式の研究をしてきました。現在は、製品開発段階における原価低減(原価企画)の研究や、「持続的成長」をキーワードとして長寿企業の研究に取り組んでいます。
- ② 経営学の古典的文献の中には、現代社会を分析するための概念装置が豊富にあります。こうした文献の講読を通じて実務や事例を促え直すことで、経験や観察だけでは発見されない問題点や問題解決の糸口を見つけることを目標とします。
- ③ 管理会計 トヨタ生産方式 原価管理 生産管理

■ 坂口 順也

- ① 企業の経営管理活動に関連する会計情報の利用と、そのための仕組みの設計・運用を対象とする管理会計について研究しています。最近の主な研究テーマは次の三つです。第一は、企業間における管理システムの設計と運用について検討する組織間マネジメント・コントロールです。第二は、日本企業におけるマネジメント・コントロール研究・実践の特徴についてです。最後は、リスク・マネジメントとマネジメント・コントロールの関連性に取り組んでいます。
- ② 管理会計に関連する知識の習得とその利用を目的とします。そのため、まず、多様な管理会計の文献(国内の雑誌論文や海外の雑誌論文を含む)を輪読し、その概要や疑問点についての報告を行います。これをふまえて、個人の研究報告を行います。
- ③ 管理会計、マネジメント・コントロール、組織間、原価管理、リスク・マネジメント

■ 仙場 胡丹

- ① 広く会計学を研究範囲としていますが、経済主体の経済的な影響(例えば財務情報の有用性の側面)を数量的に考慮しながら、会計システムの構築(例えば国際会計基準の導入の是非問題)を提言していくことは、現段階の私の研究テーマです。また、「監査論」講義を担当していることもあり、監査研究領域についても注目しています。
- ② 必要に応じて、会計学の文献(日本語と英語)を輪読します。そして、参加者には自分で研究テーマを決めてもらい、研究報告を行ってもらいます。
- ③ 会計学 財務会計 監査 会計情報 国際会計基準 実証分析

■ 中島 英喜

- ① (1) 証券投資と資産価格形成に関する実証分析およびモデル選択
(2) 社会的選択の観点に立った公的主体(公的年金や企業年金等)の投資規範評価
(3) 投資信託等の投資委任市場の均衡分析
- ② 修士論文に関連する分野について各自の研究報告を行います。また、これら研究に必要な知識を得るために専門書や論文の輪読を行います。
- ③ 証券投資 資産価格 リスク制御 モデル選択

■ 中屋 信彦

- ① 「国家資本主義」諸国の経済と企業経営について実証的な研究を進めています。「社会主義市場経済体制」とはそもそも如何なる経済体制であるのかを主要関心事とし、その構造や実態を企業という経済活動の実際の担い手の水準において把握する研究に取り組んでいます。
- ② 演習は、各種文献の輪読、参加者各自の調査報告を中心に進めます。
- ③ 比較経済体制 比較経営 国家資本

野口 晃弘

- ① 企業外部の利害関係者を報告対象とする財務会計、特に新株予約権など資本会計を研究テーマとしている。また、分散型台帳技術と簿記について研究を進めている。なお、海外の研究者とはイスラム会計に関する共同研究を行っている。
- ② 制度会計及び国際会計に関する論文執筆能力を高めるため英語でも演習を行う。会計学と会社法の学際的研究が一つのテーマであり、国内外の研究集会での研究報告を目標とする。
- ③ 財務会計 制度会計 国際会計 会社法 分散型台帳技術

樋野 励

- ① 生産システムの仕組みを理解し、産業のより良い発展のために研究を行っています。世の中には様々な生産システムがあり、先人達の多種多様な工夫と努力の上に成り立っています。その動きは留まることなく、これからも人々の生活様式の変化に追随し、ときには牽引するために生産システムはその姿を変えていくに違いありません。そんな変幻自在な生産システムには、核と成り得る基本的な仕組みがあると考えています。私はその核となる仕組みを解き明かすことで、これからの我々の生活や社会を支えていく生産システムの発展に貢献したいと考えています。
- ② それまで慣習的に行われている工夫、たとえば棚の設置や迂回路の利用など、直感的には正しいと感じていても、問われるとうまく説明できない生産上の方策はいくらでもあると思います。そういう何気ない疑問に答えを見つける過程に新しい知識の獲得があると考えています。私自身は、スケジューリングと呼ばれる最適化問題を扱った所に研究を行っていますが、手法はこれにこだわる必要はありません。論理的な思考を常に行うように心がけることを要望します。
- ③ スケジューリング 数理モデル 最適化 シミュレーション

宮崎正也

- ① 日本企業の競争力・競争優位性を、どのようにして確保し、保持していくのか？そのための戦略を「資源ベース戦略論」「アーキテクチャ論」「イノベーション論」といった概念的な枠組みを活用して研究しています。ものづくり・新製品開発の具体的な事例を取り上げて、フィールド調査します。現実の企業活動の観察から理論仮説を発見・構築し、それを自ら実証していくのが、私の研究手法です。
- ② 「資源ベース戦略論」「アーキテクチャ論」「イノベーション論」を議論している主要文献を読み、基礎概念を理解します。参加者は、それらを批判的に吸収し、ご自身の研究に役立たせてください。また、実際の企業活動で観察された事象をケース・スタディーにまとめて報告してもらい、全員で議論する機会もつくりたいです。
- ③ 経営戦略 イノベーション 事例研究

山口 景子

- ① 消費者の買い物行動や意思決定プロセス、そしてその背後に潜む消費者心理とその時間変化などを数理モデルで表現し、実際のビジネスデータを用いてその妥当性を検証する研究に取り組んでいます。近年は画像、音声や文書などの非構造化データから、計量経済学的手法や機械学習手法を用いて、消費者行動の数理モデルを構築する上で役に立つ情報をいかに抽出するかというテーマに強い関心をもっています。
- ② マーケティング・サイエンスに関する基礎文献および学術論文の輪読と議論をとおして、当該分野の研究を遂行する上で必要な知識を習得します。あわせて外部のデータ解析コンペティションなどに参加し、実際のビジネスデータを用いた実証分析の経験を積み重ねます。その後、ご自身の関心のある研究テーマでの研究報告を行い、学位論文を執筆します。社会科学的研究を遂行するために必要な学術的素養を身に付けており、実証分析で用いる統計・計量経済学・機械学習手法やプログラミングなどの自学自習を厭わない学生を希望します。
- ③ マーケティング・サイエンス 消費者行動 非構造化データ 実証分析

鈴木 智之

- ① 産業組織で働く人やそこで働きたい人に着目して、その採用や評価といった面を中心に人的資源管理分野を研究しています。一例として、採用面接の評価者間信頼性、採用適性検査で測定されるパーソナリティ構造の因子的妥当性、エントリーシートの予測的妥当性、人事行動評価の基準関連妥当性などを扱います。企業との豊富なネットワークを活用して、実在する産業組織や労働者に関する希少なデータを取得して実証分析を進めています。手法は、定量と定性の両方を用います。学術的貢献は当然のこと、実際の産業組織の採用・評価などの改善に繋がるような実践的貢献も重視しています。
- ② 上述の研究分野と統計解析の基礎知識があることを前提として、輪読と研究報告を行います。輪読では、人的資源管理、採用・選抜研究、産業・組織心理学などに関する主要文献を扱います。研究報告では、自身の学位論文に関連した研究を自ら進め、各自が研究データを準備・分析した結果をもとに発表を行います。加えて、企業の人事責任者、採用責任者、人事分野でのキーパーソンとの交流機会も適宜設ける予定です。自身の研究の位置付けや貢献可能性を検討することに繋がります。
- ③ 人的資源管理 採用・選抜研究 トランジション研究 (School to Work研究) 実証分析

